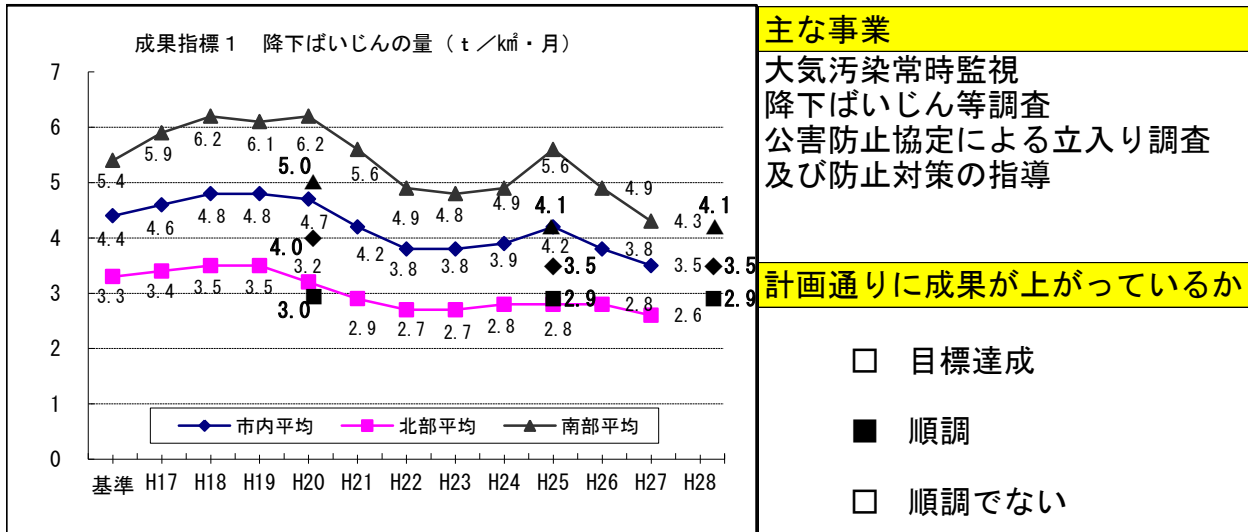


(2) 成果指標評価表

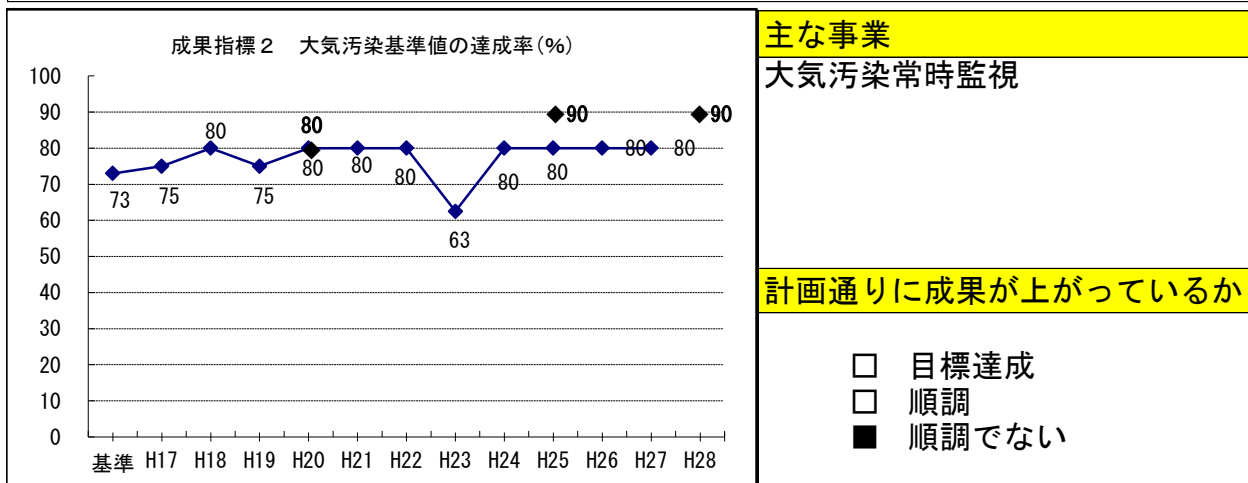
柱	1 社会環境
分野	A 大気・ばいじん
ビジョン	きれいな空気の中で暮らせるまち



成果指標の分析

平成27年度の降下ばいじん量は市内平均3.5t(北部平均2.6t、南部平均4.3t)で前年度と比べ0.3tの減少となり、南部平均以外は28年度目標値を達成している。臨海部企業はばいじん発生対策を常に実施しており、発じん防止対策の効果が表れている。

一方で、降下ばいじんや降下ばいじん以外の大気汚染により生活に支障があると感じている人の割合は悪化もしくは横ばいとなっており、対策の効果が市民に実感されていない。



成果指標の分析

事業所への総量規制、自動車排ガス対策等により、平成27年度は二酸化硫黄、二酸化窒素及び浮遊粒子状物質が環境基準を達成したものの、光化学オキシダントは全局で未達成であった。光化学オキシダントについては、発生のメカニズムが複雑であり改善が進んでいないため、全国的にも平成26年度の達成率は一般局0%であり、効果的な対策がないのが現状である。

成果が向上する余地(可能性)は？

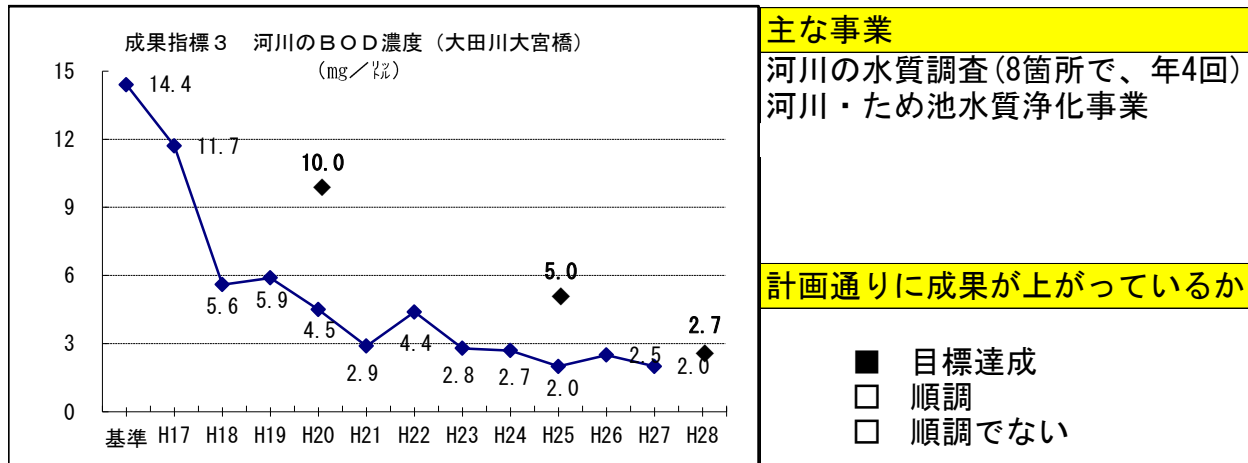
☐ 大 ☒ 中 ☐ 小

成果向上のためにすべきこと、次年度への取り組み方針

降下ばいじんは、南部が北部の約2倍と多いため、発生原因の分析をさらに進め、引き続き企業に対して発じん対策等、環境対策を指導し実現することで改善する余地がある。

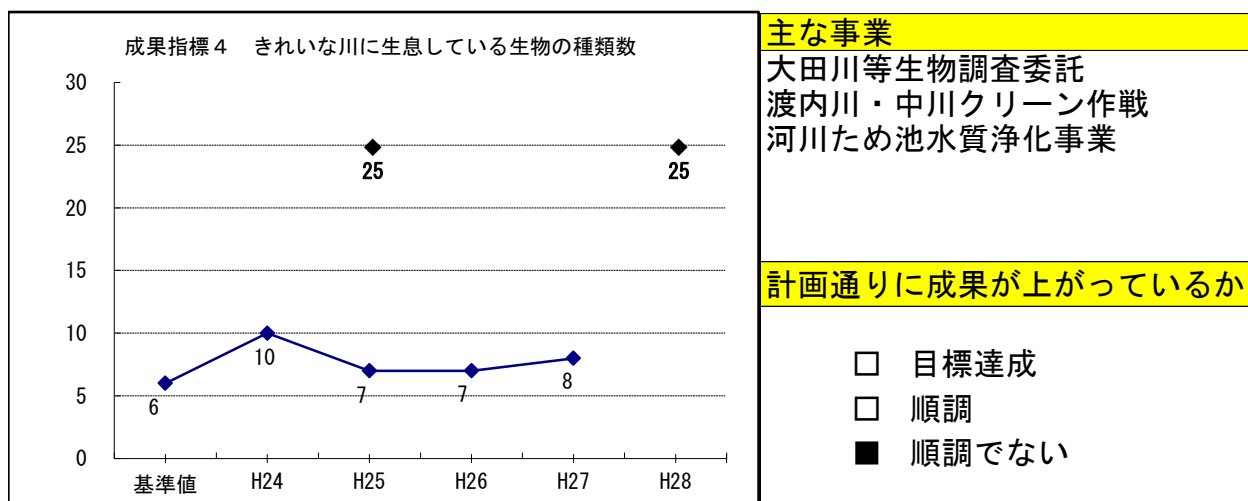
また市民が市内の大気汚染状況や企業の環境対策について知ることができる機会をつくり、情報提供の仕組みをより充実させる必要がある。

柱	1 社会環境
分野	B 水質
ビジョン	川や池を身近に感じて暮らせるまち



成果指標の分析

河川の水質調査は、季節や天候による影響はあるものの、20年度以降は全般的に数値が改善され、28年度の目標値についても達成している。これは、下水道の整備・普及が進み、生活排水の流入が減少したことが大きな要因と考える。



成果指標の分析

確認された指標生物は、前年度より1種類増え、8種類となったが、目標値と比べると大きな差があり、河川環境に係る大きな変動はない。

成果が向上する余地（可能性）は？

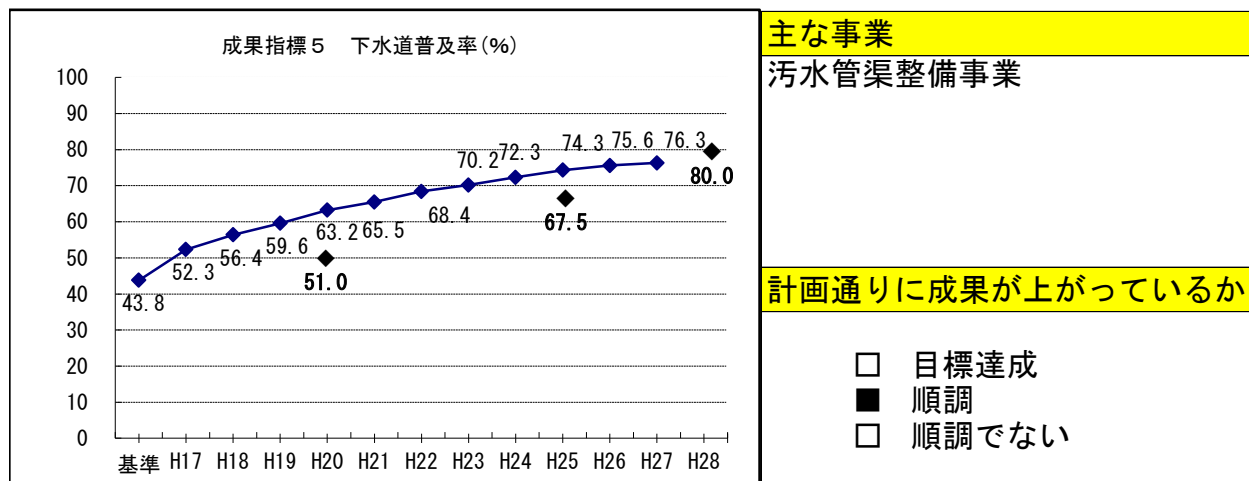
☐ 大 ☒ 中 ☐ 小

成果向上のためにすべきこと、次年度への取り組み方針

河川や海域の汚れは生活排水の流入による要因が大きいため、下水道の整備拡充を推進することによりさらに向上する余地がある。

また、河川整備や下水道整備などのハード面での施策だけでなく、環境美化活動・環境学習等により河川の環境への関心を高めるなど、ソフト面での施策を今後展開していく必要がある。また今後は水環境・水循環や生物多様性の保全に努めていく必要がある。

柱	1 社会環境
分野	B 水質
ビジョン	川や池を身近に感じて暮らせるまち

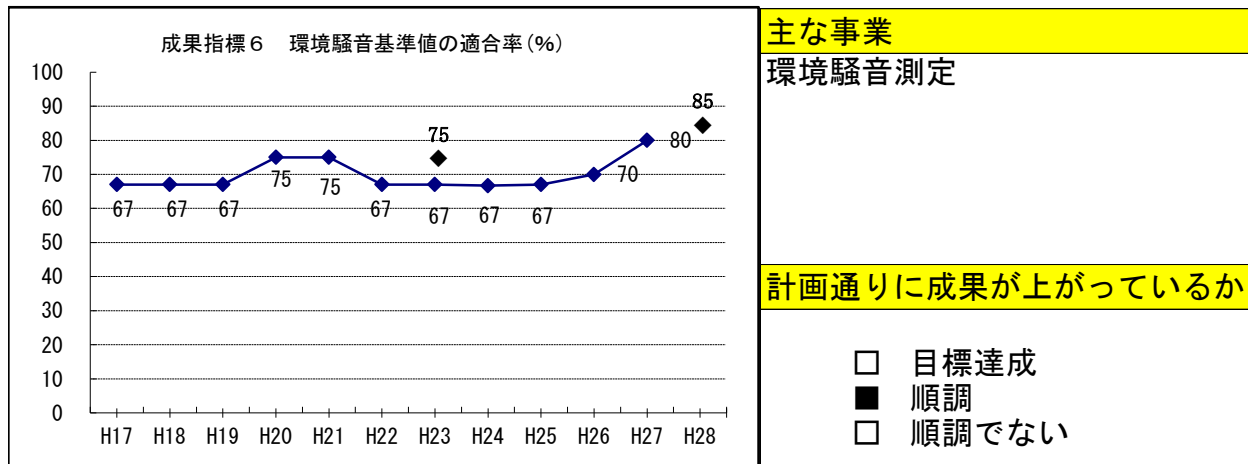


成果指標の分析

平成27年度の下水道普及率は前年度に比較し、0.7ポイント増加の76.3%となった。これは、名和町、大田町で整備済面積が増加したことによるもので、28年度目標値である80%に向け順調に推移している。

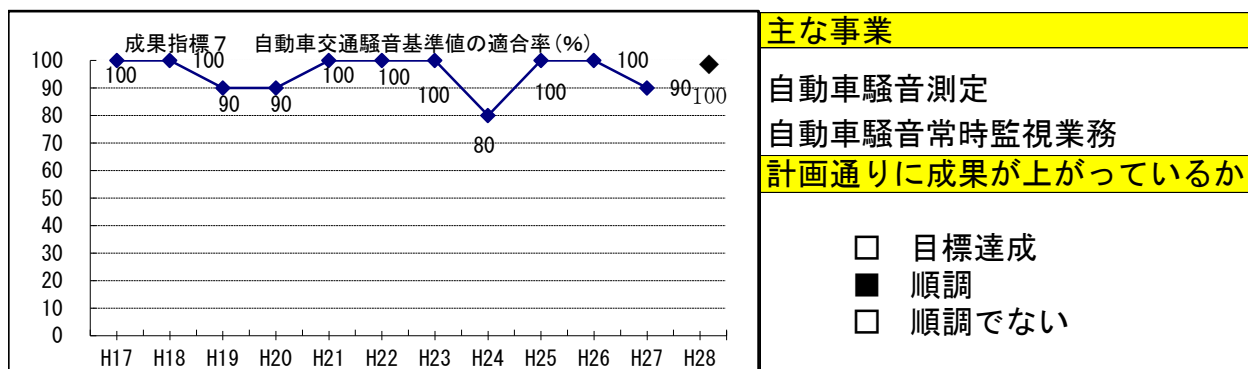
成果が向上する余地（可能性）は？	☐ 大 ☒ 中 ☐ 小
成果向上のためにすべきこと、次年度への取り組み方針 汚水管渠整備には多大な経費を要するため、一度に成果を向上することはできないが、事業認可内の面整備工事を着実に実施することにより、成果向上が見込まれる。今後も供用開始区域においては、早期の下水道接続を促していく。	

柱	1 社会環境
分野	C 騒音・振動
ビジョン	静かでおだやかに暮らせるまち



成果指標の分析

測定調査は、名和町2地点、中央町、中ノ池、横須賀町、加木屋町の市内6地点で実施している。27年度は、昼間の測定のすべての地点で環境基準を達成した。夜間の測定では、緑陽敬老の家（名和町）、市役所（中央町）の2地点が達成できなかったが、28年度目標値に向け順調に推移していると考ええる。



成果指標の分析

自動車騒音は、名和町2地点、荒尾町、高横須賀町、加木屋町の市内5地点で昼間、夜間に調査を実施している。

27年度は、千鳥津波避難所（名和町）の夜間で要請限度を1dB（デシベル）超過したが、ほぼ横ばいと考ええる。

成果が向上する余地（可能性）は？

☐ 大 ☐ 中 ☒ 小

成果向上のためにすべきこと、次年度への取り組み方針

環境騒音が夜間に超過していることから、交通量増加に伴うものと考えられる。また近年、日常生活に伴う近隣騒音も問題化しているため、市民への啓発を行っていく必要がある。

柱	1 社会環境
分野	D 悪臭等
ビジョン	健康で安心して暮らせるまち

成果指標 8 悪臭の公害苦情件数 <table border="1"> <caption>悪臭の公害苦情件数 (実績値)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>H17</td><td>20</td></tr> <tr><td>H18</td><td>10</td></tr> <tr><td>H19</td><td>20</td></tr> <tr><td>H20</td><td>10</td></tr> <tr><td>H21</td><td>16</td></tr> <tr><td>H22</td><td>12</td></tr> <tr><td>H23</td><td>11</td></tr> <tr><td>H24</td><td>14</td></tr> <tr><td>H25</td><td>10</td></tr> <tr><td>H26</td><td>10</td></tr> <tr><td>H27</td><td>7</td></tr> <tr><td>H28</td><td>10</td></tr> </tbody> </table>	年度	件数	H17	20	H18	10	H19	20	H20	10	H21	16	H22	12	H23	11	H24	14	H25	10	H26	10	H27	7	H28	10	主な事業 臭気測定 公害防止協定による立入調査 及び防止対策の指導 計画通りに成果が上がっているか ☒ 目標達成 ☐ 順調 ☐ 順調でない
年度	件数																										
H17	20																										
H18	10																										
H19	20																										
H20	10																										
H21	16																										
H22	12																										
H23	11																										
H24	14																										
H25	10																										
H26	10																										
H27	7																										
H28	10																										
成果指標の分析 27年度の悪臭の苦情件数は前年度から3件減り、7件となり28年度目標の10件を達成した。 苦情の内訳として、不動産業が1件、製造業が1件、農業が1件、家庭生活が2件、不明が2件であった。																											
成果が向上する余地（可能性）は？ ☐ 大 ☐ 中 ☒ 小																											
成果向上のためにすべきこと、次年度への取り組み方針 年度によって数値にばらつきがあるため、28年度の目標値達成は不透明であるが、27年度は28年度の目標値を達成しており、苦情件数は横ばいにある。 特定の事業者に対して苦情が長期化する場合もあるため、定期的に悪臭測定を実施し、事業者の監視をしていく。																											